

とレシリコンカテーテルを刺入。カテーテルは留置し術後排膿腔内洗浄、及び抗生剤注入を行なった。

〈結果〉4例はCTにて病変が縮少し排膿を認めなくなった時点でカテーテル抜去し、その後抗生剤全身投与を行ない軽快。

〈結論〉脳膿瘍の治療に於てCT定位脳手術法を用いることの利点として、脳深部の小膿瘍・multilocularなもの・慢性期で壁の硬い膿瘍などでも正確に穿刺排膿することが可能である点、術後の神経脱落症状が少ない点、等が挙げられると考えた。

33) 悪性下垂体腺腫の1例

黒木 瑞雄・田中 隆一 (新潟大学脳研究所 脳神経外科)
 武田 憲夫・横山 元晴 (同 脳神経外科)
 関口賢太郎・河野 充夫 (同 脳神経外科)
 新保 義勝・高橋 均 (同 脳神経外科)
 生田 房弘 (同 脳神経外科)

遠隔転移をきたす謂ゆる悪性下垂体腺腫は極めて稀である。我々は、今回手術後、短期間に広汎な髄腔内播種をきたし、不幸の転帰をとった1例を経験したので報告する。症例は47才、女性。急速に進行する視力低下及び視野障害にて発症。手術にてトルコ鞍内から鞍上に伸展する腫瘍を摘出。組織診断は嫌色素性下垂体腺腫であり、核の大小不同が著明で、核分裂像も散見された。内分泌学的には non-functioning adenoma であった。退院後2ヶ月して、頭蓋内及び脊髄腔内に多発性の extra-medullary mass を形成。腫瘍の一部を摘出したが組織学的には前回と同様所見であり、下垂体腺腫の広汎な髄腔内播種と診断された。全経過11カ月で死亡。

34) 汎下垂体機能低下症と高プロラクチン血症を示した intrasellar meningioma の一例

渡辺 正人・谷口 禎規 (長岡赤十字病院 脳神経外科)
 外山 孚・渡辺 正雄 (同 脳神経外科)
 金子 兼三 (同 内科)
 横山 元晴 (燕労災病院 脳神経外科)

症例は49才、女性。S59年7月頃から左耳側半盲、左視力低下さらに右耳側半盲も加わり来院。視力は右0.6、左0.1で、左不完全耳側半盲と右上耳側1/4盲を呈したが、他に神経学的異常を認めなかった。トルコ鞍は著明に拡大し、鞍内から鞍上部に造影剤で不均一に増強される腫瘍が認められたが、脳血管撮影では腫瘍陰影はみられなかった。内分泌学的検索では、顕著な汎下垂体前葉機能低下症と高プロラクチン血症を呈した。下垂体腺腫

を疑い、S60年8月6日経蝶形骨洞的に手術を行ったところ、病理診断は髄膜腫であった。

トルコ鞍内から発育したと思われる髄膜腫の一例につき若干の考察を加え報告する。

35) Giant prolactinoma 4例の検討

布村 充・宮町 敬吉 (北海道大学 脳神経外科)
 杉本 信志・会田 敏光 (同 脳神経外科)
 阿部 弘 (勤医協札幌中央 病院脳神経外科)
 伊古田俊夫 (同 脳神経外科)

著明な鞍外進展を伴う Giant pituitary adenoma は根治的切除が困難であり、予後不良のものが多いことはよく知られている。今回私どもは直径50mm以上の Giant prolactinoma 4例を経験したので報告する。症例は18~36歳の男性2例、女性2例で、術前 PRL 値は12,000~42,500ng/ml であり全例に手術を施行した。手術 approach として経蝶形骨洞法は安全性において優れていたが、何れも部分摘出に終わった。CB-154の腫瘍縮小効果は4例中2例に認められ、中でも術前に投与した1例は著効を示し、CB-154の術前投与の有効性を示唆した。CB-154の1~2週間の術前投与にて効果を判定する Giant prolactinoma の治療 protocol を提唱した。

36) Pituitary macroadenoma 73例の検討

大坊 雅彦・丹羽 潤 (札幌医科大学 脳神経外科)
 堀田晴比古・坂本 靖男 (同 脳神経外科)
 太田 潔・田辺 純嘉 (同 脳神経外科)
 端 和夫 (同 脳神経外科)

目的：macroadenoma 73例の治療成績を分析し、適切な治療方針を考察する。

対象：機能性腺腫53例、非機能性腺腫20例。男性24例、女性49例。腺腫の大きさは Hardy のII型が41例、III型11例、IV型21例。治療は経鼻的手術55例、開頭術13例、両者合併手術4例で1例はプロモクリプチン服用中である。

結果：視力視野異常を36例に認め、手術により改善したものの28例、不変6例、悪化2例。開頭術群で改善が悪かった。術後合併症は23例に認め、一過性尿崩症11例、次いで髄液漏6例であった。開頭術を行なった症例に脳神経麻痺、頭蓋内出血を認めた。経鼻的手術で行なった fibrous adenoma 2例のうち1例は部分摘出に留まり、1例はSAHを来した。